

誌上句会

俳誌『花藻』には「誌上句会」があります。課題となる漢字一文字が示され、その漢字を織り込んで作品にし、投句（一人一句）します。投句は毎月二五〇句前後です。作者名を書いていない作品、二五〇句前後から会員が一人五句を選句し、投句します。その結果が、点数順に発表されます。7点まで作品が公表されます。

通巻895号『花藻』（令和2年5月号）は「誌上句会<和>の成績発表でした。その月は最高点は29点。上位句は次通りでした。

紙漉きの音凍らせて和紙の里	美由紀
日溜りにいのち和らぐ冬すみれ	秀湖
雛の餅少し反りたる日和かな	悦子
深吉野の古き湯宿や木の芽和	利元
てまひまを惜しまぬ母の土筆和	和子
ゆつくりと車椅子押す梅日和	しげる
山菜を和えてゑぐみの春を呑む	悠翁
うたた寝の頬の寝跡や春日和	久美子
春めきて和音奏でる水流る	舞子
竹箒今日は飛べさう秋日和	達栗
虫干しや父が和綴じの覚え書き	栄寿

酔う程に昭和の話花の宴

幸司